

堺市障害者自立支援協議会 障害当事者部会 交流会 実施報告

日時： 平成30年10月24日（水）14：00～16：00

場所： 堺市産業振興センター 4階 セミナー室5

対象： 市内在住の障害当事者

参加人数： 7名（身体障害2名、精神障害3名、知的障害2名）

※ 障害当事者部会からの参加人数は9名

合計 16名

(1) 「障害当事者部会とは」 (説明：西野委員)

(2) テーマ：「もしもの時の用意をしていますか？ ～防災について考える～」

グループ①

【平成30年上半期に起きた災害時の体験談】

- ・6月の地震時、パニックになり自身の身を守る事もできずに戸惑った。
- ・台風では避難所に行く判断ができずにいた。
- ・阪神淡路大震災の経験があり、冷静に対応できた。
- ・台風でマンションが揺れた。停電にもなり水道が使えなくなり、マンションは停電に弱いと実感した。
- ・戸建住宅でも、台風・地震ともに家が揺れた。対応できずに身を任せるしかなかった。大阪では大きな災害被害は無いと甘く見ていた。

【日常的に自身で行っている防災対策】

- ・水や内服薬を備蓄し、ローテーションを行っている。
- ・家族全員の避難袋を用意している。物品に優先順位をつけて保管している。
- ・乾電池や笛の準備をした。南海トラフ地震への対応が必要だと感じた。
- ・食糧備蓄の必要性を感じた。
- ・家具の転倒対策をしないといけない。
- ・インスタント食品やガスボンベ、車いすの充電器は必要で、日々意識している。
- ・停電で電子レンジが使えなくなる事を考慮し、備蓄食品を選択している。

【避難所に期待する事】

- ・人混みが駄目で、避難所に行く事を考えていない。家に被害が出れば、施設が受け入れてくれると助かる。
- ・発達障害者は一見解らず、いちいち障害特性を説明しないといけない。
- ・学校が徒歩20分かかる。車いすを使用しており、雑多な環境で過ごせるか心配。
- ・一般の避難所に福祉避難所の役割を持たせるべきと考える。
- ・個人情報課題はあるが、地域で課題のある方のリストが必要ではないか。
- ・罹災後から救援物資が届くまでどう乗り切るかが重要。体制が整うまで耐え凌ぐ

システム作りが必要。

- ・避難所を把握しているが、倒木や瓦礫でうまく非難できないかもしれない。

グループ②

【平成30年上半期に起きた災害時の体験談】

- ・火元をすぐに消した。
- ・電話が繋がらず、LINE が活用できた。
- ・阪神淡路大震災の時は建物の下敷きになった事がクローズアップされたが、今回の地震はブロック塀が崩壊という、普段みんなが見落としがちなのが影響し、尊い命が失われた。
- ・コンビニから食品が無くなった。
- ・すぐにお風呂に水を張った。
- ・安否確認を誰かがしないといけない。

【日常的に自身で行っている防災対策】

- ・お茶と水を無くなる前に買っておくようになった。
- ・すぐに風呂に水を張り、トイレが流せない時に活用する。
- ・処方薬を切らさないように、しっかり通院し薬を貰う。
- ・炊飯など、なんでも早く済ませておくようになった。
- ・日頃から災害を想定した危機管理行動が大事。
- ・ラジオや懐中電灯を各部屋に置いている。

【避難所に期待する事】

- ・車いすが入れるトイレが避難所になく、距離のある所まで行かないといけない。
- ・ペットは避難所に連れていけない、でも家族だから置いておくのも辛い。
- ・避難所がまずどんな所なのか知らない。
- ・プライバシーが守られていなさそうで恥ずかしい。(着替え等)
- ・災害の規模によって定員があると聞いた。
- ・暑さ、寒さの調整が難しい
- ・避難者から根掘り葉掘り聞いて来られそうで嫌。
- ・車の方がプライバシーが守られ易く、良い時もある。
- ・避難所で障害を理由に差別を受けそう。理解を得にくい。
- ・障害のあるなし関係なく公平に言うべき。
- ・車いすの人によっては、ある程度のスペースが必要。
- ・定員に限らずトイレの確保をして欲しい。
- ・お金より物資が必要。

グループ③

【平成30年上半期に起きた災害時の体験談】

- ・台風被害の修理が追い付いていない。
- ・作業所の停電で、エレベータが停止し車いすの人たちが移動できなかった。
- ・通所については、事前にアナウンスがあり通所しなかった人もいた。

- ・障害があると、周りの助けが必要となるが、災害時には周りがそれどころではなくなる。
- ・避難するかどうかの判断基準がわからなかった。
- ・災害直後に助かっても、ヘルパーが居なければ何もできない。
- ・ヘルパーとの連絡に災害用伝言板の活用を行った。
- ・今回の災害で、地震による被害よりも台風による被害の大きさを実感した。

【日常的に自身で行っている防災対策】

- ・災害時の準備については、健常者と同程度は可能であるがそれ以上の事は困難。
- ・最低でも3日分の準備が必要と言われている。
- ・災害時配給があったとしても、自身で取りに行けないのではないかな。
- ・視覚聴覚障害のある方にはそれぞれの対応が必要となるのではないかな。
- ・備蓄として、普段から多めに購入しておく。(水で調理可能な食品等)
- ・災害時、普段慣れたヘルパー以外の人でも対応できるようにする必要がある。
- ・地域の民生委員や近隣住民と、普段から関係を持つ必要があるのではないかな。

【避難所へ期待する事】

- ・車いすでも利用可能なトイレの配置。
- ・PSW や事業所のスタッフの精神面でのケア (安否確認を含む)
- ・薬が無い状態で避難してくる人への薬の確保。
- ・避難生活についてなかなかイメージができない。避難生活の体験ができれば。
- ・障害のある方でも出来ることについて、具体的にイメージできるものが欲しい。
- ・避難所は作業所や支援学校がいいのではないかな。

グループ④

【平成30年上半期に起きた災害時の体験談】

- ・今回は地震、台風ともに夜間に発生しなくてよかった。夜間に災害が起きたら、どうしようと心配。
- ・家は停電で水も出なくて不安だった。
- ・作業所も36時間停電になり、授産製品がダメになってしまった。
- ・電話が繋がらない状態が続いた。
- ・情報が入りにくかったので、同じ障害仲間同士でLINEを使って写真やメッセージのやり取りをした。

【日常的に自身で行っている防災対策】

- ・携帯電話のバッテリー充電をこまめにしておく。
- ・靴を非常持出袋に入れている。
- ・飲料水、簡易トイレ、懐中電灯を用意している。
- ・家族が集まる場所を決めておく。
- ・災害が起きる前から防災について考えておく必要がある。
- ・ベッドの下に3日分の飲食物、着替えをリュックに入れてある。
- ・日頃から、近所付き合いをして知り合いになっておく。
- ・まず、どこに避難するのか確認している。

- 日頃から、緊急時にヘルプカードを提示できるようにしておく。
- マンションの避難訓練などには、できるだけ参加するようにしている。

【避難所に期待する事】

- 備蓄倉庫内に何が入っているかを知っておきたい。場合によっては、避難時に毛布などを持っていかないといけないのでは。
- プライバシーが無い状態で、しんどい障害者も多い。プライバシーが配慮される状況を確認して欲しい。
- ろうわ者にとっては、情報が必ず必要になる。見てわかる情報ツールを各避難所に設置して欲しい。(例：夜間でも書いた文字が発光するボード)
- 精神障害者は服薬が大事なので、薬が途切れない仕組みが欲しい。
- 障害のある人もない人もどこに行けばいいか分かるようにして欲しい。教えてくれる人がいるといい。
- 障害者としてわかるもの(例：ピブス等を障害種別で色分け)が備品に入っているといい。

【アンケート集計結果】

交流会はどうでしたか？

1、	よかった	・・・・・・・・・・・・・・・・	3	名
2、	どちらかといえば、よかった	・・・・・・・・	2	名
3、	どちらかといえば、よくなかった	・・・・	0	名
4、	よくなかった	・・・・・・・・	0	名

感想・次回話したいテーマ

- 交流会は年1回ではなく、もう1回くらい開催して欲しい。
次回は、労働や雇用時間についてなどの話もして欲しい。
- 初めて交流会に参加し、いろんな方の体験を聞き、災害は他人事ではなく、自分にも降りかかるものだと教訓になった。障害者にとって、情報が伝わらないもどかしさがあり、いろいろ意見交換ができて良かった。
交流会はせめて1年に2~3回に増やして欲しいです。
- 人との距離の取り方について話をして欲しいです。
- 障害当事者部会の歴史についての討論会のような交流会を企画してはどうか。
- 障害のある市民への周知方法を考え、例えば、新しく完成する堺市民会館で交流会ができれば良いなと思いました。
- 各障害の理解、啓発を進めていける交流会に参加できたら更に良いと思いました。